

MICHELE ALLIOT-MARIE

First woman in France to hold portfolios of Defence, Interior and Foreign Affairs

LONDON
SPEAKER
BUREAU



Topics

- Education
- Politics

現在、欧州議会議員、ミシェル・アリオット-マリーは、国防大臣（2002-2007）、内務大臣、海外および領土共同体（2007-2009）、法務大臣および自由（2009-2010）を歴任しました。その後、ジャック・シラク大統領とニコラス・サルコジ大統領の間に、国務大臣、外務大臣および欧州問題大臣（2010年 - 2011年）。ミシェルはまた、主要な政党を率いた最初の女性でもありました。これにより、彼女はヨーロッパの政治的パートナーおよび国際的なつながり全体との関係を築くことができました。

講師として、彼女はパリ第1ソルボンヌ大学でも教えました。選択的なサービスのために切り離されました。彼女は私法、政治科学および法の歴史において大学院の卒業証書を持っています。

そのようなものとしてMAMとして広く知られているミシェルは多くのそして多様な地位を保持しており、フランスへの奉仕において並外れた資質を示しています。1986年3月から1988年5月まで、政府シラック内で教育を担当する国家教育大臣の国務大臣を務め、1993年3月から1995年5月まで、バラードール政府で青年スポーツ大臣を務めました。

2002年に、彼女は2007年5月まで、防衛大臣、彼女がドミニク・ド・ヴィルピンのチームの上で政府ラファリンで占めた地位としてホテル・ド・ブリエンヌに入る最初の女性でした。

ニコラス・サルコジ大統領が共和国大統領に選出された後、MAMは、2007年から2009年6月までの間に、第1フランソワ・フィロン政府内務大臣になり、その中で、彼女は、国務大臣として首相になりました。Fillon II政府の法務大臣および自由の大臣Garde des Sceaux

2010年11月、国家元首による内閣改造の際に、MAMは国務大臣、外務大臣および欧州問題大臣になりました。

彼女は、共和国史上初めてフランスの外交とケ・ドルセイの指導を受けた最初の女性であり、4つの大きな主権部署を次々と連帯させた最初の政治家でした。

Micheleは現在、ピレネーアトランティックの副議長およびサンジャンドリユスの副市長、ならびにUMPの副会長です。